

## 大学生に AI パソコンをオススメする理由

大学生はレポートや論文（word）、プレゼン発表（PowerPoint）の機会が多く、資料作成にはグラフや表（Excel）を用いることも多いので、多くの学生は Office を使ってレポート・論文を作成します（小樽商大の場合は『卒業論文』もあります）。

レポート・論文の作成には、問題発見、問題解決のための仮設や立証などのほか、様々なデータを収集し、分析するチカラが必要になります。データの多くはインターネットの検索や文献で調べるのが一般的です。例えば、

### 「小樽商科大学の入学者推移から見る就職率」

を調べる場合、インターネットの検索エンジン（今回は Google）で

「小樽商科大学」「入学者推移」「就職率」

と入力すると、以下のような検索結果が現れます（パソコンによって異なります）。



これらのサイトやページの中から必要な情報をチョイスし、文章、グラフ等にまとめるのがレポートや論文になり、単位取得につながります。しかし、一つ一つのサイト、ページの中から求めている事柄や数値、データ等を抜き出すには多くの時間を要することになります。また、必要なデータが見つからなければ検索条件を変更するなどして異なるサイトや関連するソースから探さなければならない場合もあります。

このように、今までのデータ収集は、検索条件を工夫することにより様々なサイトから「必要なデータを探す」スキルが必須ということになります。その中において、最も気を付けなければならないのはそのサイトのデータが「いつのものか？」ということです。インターネットの中には 1～2 年前、極端な場合 10 年前のデータや情報が玉石混合のように入り乱れているため、調べる情報かがいつのものなのか、正確なのかを留意しなければウソのレポート、間違った論文を書いてしまう怖れがあるわけです。

◎これを “生成 AI” で行う場合（今回は Microsoft の Copilot を使用）



知りたいこと（プロンプト）を入力

知りたい情報をAIがまとめてくれるため、データ収集に時間がかかりません。またデータの出所やいつのデータかについても記載されています。

多くの“生成 AI”モデルは、インターネット上の膨大なテキストや画像データを取り込んでいます。これには、SNSの投稿、コメント、写真、動画なども含まれます。SNSの情報が学習ソースに含まれる理由と影響は、多様な意見やトレンドの反映（SNSは最新のトレンド、口語表現、多様な文化的な視点の宝庫であり、AIがより自然で現代的なコミュニケーションを学習するのに役立ちます。膨大なデータ量（SNSは常に新しいコンテンツが生成されており、大規模なモデルのトレーニングに必要なデータ量を確保するのに効率的なソースです。）

もちろん課題やリスクもあります。

情報の信憑性：SNSには誤情報、フェイクニュース、偏見が含まれることが多く、AIが不正確な情報を学習してしまうリスクがあります。





プライバシーと著作権：同意なく公開された個人情報や著作権で保護されたコンテンツがデータセットに含まれる可能性が懸念されています。

有害なコンテンツ：ヘイトスピーチや暴力的なコンテンツが AI の応答に反映されるリスクも存在します。

これらの課題に対応するため、多くの AI 開発企業は、トレーニングデータのフィルタリング、キュレーション、およびモデルの安全対策に多大な努力を払っていますが、SNS 由来の情報が完全に排除されることは稀です。

つまり“生成 AI”は大学生に課されるレポート、論文のデータ収集に掛かる時間を飛躍的に短くできるツールということになります（他にも用途はたくさんありますが）。インターネット検索のように、検索ワードを工夫したり、たくさんのサイトを閲覧することなく、欲しい情報が欲しいカタチになって提供されます。プロンプトを追加することで、さらに深掘した回答も得られますし、AI パソコンから「さらに細かく整理して表にまとめることもできますが見てみますか？」といった提案までしてくれます。

“生成 AI”はインターネット上にあるビッグデータから必要な情報をピックアップしてまとめてくれる優秀なアシスタントです。もちろん上記にあるようなリスクや間違いもあるため、論文をまるまる AI に任せるわけにいかないのは言うまでもありません。

では、その作業は「AI パソコン」でなければ出来ないのか？というところ、そうではありません。一定のスペックがあるパソコンであればクラウド上の“生成 AI”（chat GPT など）を使い同じ作業は可能です。ただ、これまで述べてきたように“生成 AI”はインターネット上に散らばる多くのデータを収集することにその機能をフル活用します。そのため、“生成 AI”に調べさせる内容が複雑であればあるほどパソコンの CPU（計算能力）に負荷がかかります。つまり“生成 AI”と他のアプリケーションを同時に使う場合、パソコン全体の動きが遅くなります。大学生の使用場面を例にとると、“生成 AI”にデータ収集をさせながら、講義の動画を見つつ、word で文章を書き、PowerPoint でスライドを作成するとすると、パソコンのスピードが遅くなる可能性が高くなります。「AI パソコン」はそういったことを考慮し、「生成 AI」の機能を CPU から切り離して NPU に任せる機能を持ったパソコンということになります。

AI スキルは大学のレポート、論文に限らず、社会人になっても必要とされるスキルです。今のうちから AI スキルを高め、社会人になってからも AI を上手に利用して仕事に活かせるよう、学んでいくことが求められています。

文責：菅沼秀也